

令和3年8月4日

青森県教育委員会第871回定例会

期 日 令和3年8月4日(水)
場 所 教育庁教育委員会室

会 議 次 第

- 1 開 会
- 2 陳 情
 - 県立高等学校教育改革に係る件について 1
- 3 議 案
 - 押印を求める手続の見直し等のための関係規則の一部を改正する規則案について 2
- 4 その他
 - 青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)に関するパブリック・コメント及び地区懇談会の実施状況について ... 3
 - 職員の懲戒処分の状況について 4
- 5 閉 会

陳情第1号

県立高等学校教育改革に係る件について

1 「青森県立浪岡高等学校の存続を求める要望書」の件

- ・提出者住所 青森県青森市中央1丁目22番5号
- ・提出者氏名 青森市長 小野寺 晃彦 外1名
- ・受理年月日 令和3年7月8日

2 「青森県立浪岡高等学校の存続を求める要望書」の件

- ・提出者住所 青森県青森市浪岡細田159番地7
- ・提出者氏名 日本共産党青森市議会議員 天内 慎也
- ・受理年月日 令和3年7月16日

3 「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）に係る青森県立木造高等学校学級維持を求める嘆願について」の件

- ・提出者住所 青森県つがる市木造若緑61番地1
- ・提出者氏名 つがる市長 倉光 弘昭 外5名
- ・受理年月日 令和3年7月20日

議案第 1 号

押印を求める手続の見直し等のための関係規則の一部を 改正する規則案について

1 提案理由

「地方公共団体における押印見直しマニュアル」（令和 2 年 1 2 月 1 8 日内閣府）等を踏まえ、県教育委員会が所管する行政手続のうち、県民・事業者等に押印を求める手続の見直し等を行うため提案するものである。

2 概要

教育委員会規則で定める様式等において、県民・事業者等に求めている押印のうち、廃止可能と考えられるものについて、今後押印を求めないこととするほか、所要の整備を行うため各様式等の改正を行う。

3 改正案及び新旧対照表

別冊のとおり

4 施行期日

公布の日から施行する。

[その他]

青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）に関するパブリック・コメント及び地区懇談会の実施状況について

1 パブリック・コメント

■ 実施期間 令和3年7月8日 ～ 8月16日（40日間）

■ 提出件数 10人 延べ25件の意見（8月3日時点）

2 地区懇談会

■ 実施状況

月日	地区	開催市町村	参加者	発言者	アンケート回答者数
7/14	三八	八戸市	14人	2人	11人
7/16	上北	十和田市	16人	5人	13人
7/19	東青	青森市	85人	18人	36人
7/21	下北	むつ市	91人	15人	61人
7/26	中南	弘前市	18人	5人	14人
7/28	西北	五所川原市	84人	13人	52人
7/30	東青	青森市(旧浪岡町地域)	169人	21人	45人
8/2	下北	むつ市	96人	24人	65人
合計			573人	103人	297人

※ 参加者の人数は報道機関の人数を除く。

[その他]

職員の懲戒処分の状況について 令和3年8月（7月1日～7月31日分）

青森県教育委員会

事案1 ①被処分者 東青地域の高等学校 技能職員（54歳 男性）

②事件の概要等 窃盗

令和3年5月23日（日）午後1時30分頃、青森市内のスーパーマーケットにおいて、入れ歯用超音波洗浄機（約5,000円相当）を窃取したものを。

③処分内容 停職4月

④処分年月日 令和3年7月29日

事案2 （処分後速やかに公表した事案）

①被処分者 下北地域むつ市の中学校 教諭（36歳 男性）

②事件の概要等 覚醒剤取締法違反

令和3年7月11日（日）午前11時52分頃、青森市内のインターネットカフェの駐車場において、ビニール袋入り覚醒剤を所持したものを。

③処分内容 免職

④処分年月日 令和3年7月30日

参 考 資 料

第 8 7 1 回定例会（令和 3 年 8 月）

●陳情第 1 号

県立高等学校教育改革に係る件について

P 1 ~P 9

●議案第 1 号

押印を求める手続の見直し等のための関係規則の一部を改正する規則案について 別冊

青森県立浪岡高等学校の存続を求める

要 望 書

青 森 市
青森市教育委員会



青森県立浪岡高等学校の存続を求める要望書

青森県教育委員会が令和3年7月7日に公表した「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画(案)」によると、青森県立浪岡高等学校(以下「浪岡高校」)は、青森県立青森西高等学校との新たな統合校の開校により、令和10年度末をもって閉校することとされている。

これまで東青地区で3回開催された同計画に関する地区意見交換会では、委員の方々から統合に関して懸念や提案が示されているが、残念ながら同実施計画(案)ではそれらが反映されているようには見受けられない。

浪岡高校は、昭和5年に前身である青森県浪岡村立浪岡女子実務学校が創立されて以来、これまで12,707名の卒業生を輩出してきており、令和2年度には創立90周年を迎えた伝統と歴史ある高等学校である。

また、バドミントン部は、全国大会で団体・個人ともに優勝するなど目覚ましい成績を挙げており、現在、同部へ所属する生徒21名中、17名が県外出身者となっている。

このように、浪岡高校のバドミントン部が好成績を収めてきた背景には、浪岡地区において第32回(昭和52年)青森国体のバドミントン競技の主会場となるなど、バドミントンが地域に根差したスポーツとなっていたこと、また、優秀な指導者や施設にも恵まれ、ジュニアの若い世代や中学生が全国で活躍してきたことは言うまでもない。

こうした中での浪岡高校の廃校は、浪岡地区におけるバドミントン競技の象徴的な存在である同校バドミントン部が失われることのみならず、全国から同部を希望し集まってくる生徒の受け皿を失うこととなるため、青森市としては極めて遺憾であり、断じて受け入れられるものではない。

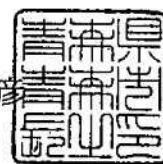
以上を踏まえ、次の点について強く要望する。

- 1 浪岡高校を存続させること
- 2 浪岡高校バドミントン部に入部を希望する県外生徒を受け入れるため、全国からの生徒募集制度を導入すること

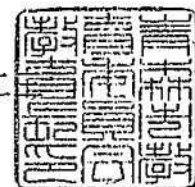
令和3年7月8日

青森県教育委員会教育長 和嶋 延寿 様

青森市長 小野寺 晃彦



青森市教育委員会教育長 成田 一二



2021年7月16日

青森県教育委員会
教育長 和嶋 延寿 様

日本共産党青森市議会議員
天内 慎也
日本共産党浪岡支部
青森市浪岡細田159-7

要 望 書

青森県教育委員会は、県立高校再編の第2期実施計画(2023~27年度)案を発表し、青森西と浪岡の統合校を27年度に新設し、28年度末に浪岡を閉校するとしました。浪岡地区住民からは、同じ東青地区とはいえ、山を越えた浪岡高校が無くなることによる不安と、存続を求める声が多数寄せられています。

浪岡高校は、全国屈指のバドミントン部があり、全国から多数の生徒が入部されている現状にあります。また、浪岡地区のイベント等への協力や、ボランティアとしての参加など、地域コミュニティへの中核的役割をはたしています。

和嶋教育長は、「成案前提ではない。意見を一つ一つ丁寧に検討していく」と述べています。そうであるならば、浪岡地区住民の切実な声として、浪岡高校の存続に、是非ともご配慮いただきますよう強く要望いたします。

記

- 一、 浪岡高校を存続すること。

以上



青森県教育委員会

教育長 和嶋 延寿 殿

嘆 願 書

青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）に係る青森県立木造高等学校学級維持を求める嘆願について

つがる市

つがる市教育委員会

つがる市連合父母と教師の会

青森県立木造高等学校後援会

青森県立木造高等学校銀杏ヶ丘同窓会

青森県立木造高等学校父母と教師の会



青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）に係る青森県立木造高等学校学級維持を求める嘆願について

【嘆願の趣旨】

青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）が令和3年7月7日に青森県教育委員会から公表されました。

青森県立木造高等学校は、旧制第四中学校から文武両道を掲げ、創立94年が経過した現在もその校風と実績は受け継がれてきています。西北地区の中学校からは、勉強と部活動の双方を頑張りたいという生徒が毎年入学し、過去5年間の第1次進路志望状況調査倍率は西北地区の中では1番高い状況です。

青森県教育委員会では、令和5年度実施の青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）策定において、昨年度県内各地区で意見交換会を行っています。西北地区では、青森県立中里高等学校が令和4年3月、青森県立金木高等学校及び青森県立鶴田高等学校並びに青森県立板柳高等学校、青森県立木造高等学校深浦校舎が令和5年3月に閉校することが決まっており、西北地区全体において青森県立五所川原工業高等学校を含む6校が統合や閉校になることで、西北地区の市町から学びの場が失われてしまうことに、強い不安と危機感を抱いています。

西北地区全体の教育環境、とりわけ高校受検の倍率が1番高い青森県立木造高等学校の学級数減は、夢ややりがいをもって進路選択を考えている中学生にとっては、可能性を狭めてしまうことになりかねない深刻な問題です。

西北地区の教育環境と地域の活力となる高校生の学習の場を守り、また、新しい時代を主体的に切り拓いていく人づくりをめざし、地域と連携した魅力的な教育活動を推進している青森県立木造高等学校の学級数維持について、以下の事項を嘆願します。

1 青森県立木造高等学校は、開校当初から文武両道を掲げ、学業と部活動の両立を実践し、これまでに多くの地域を支える人材育成に取り組みながら、つがる市唯一の高等学校として地域経済に貢献しているほか、縄文文化など地域の文化や伝統の貴重な担い手を育成する役割も担ってきています。

今回の青森県立木造高等学校の学級減の案は、伝統ある学校の魅力であり文武両道の一翼を担う部活動の活性化に多大な影響を及ぼすだけではなく、地域とのつながり、ひいては学校全体の活動の衰退につながります。

青森県立木造高等学校は、青森県立高等学校教育改革推進計画に則り、総合学科の特徴と方向性を最大限に生かし、大学進学志望者や就職希望者に対応できる教育課程の編成や生徒のニーズ等を踏まえた系列のほか、産業社会と人間の時間、総合的な探究の時間等を活用し、地域の課題解決に主体的に取り組む、県事業のほか地域の団体、企業、市役所等と連携を図りながら、その成果を収めてきました。

また、中学生の将来の進路選択肢の確保のために、

- (1) 幅広い進路選択に対応する高校
- (2) 選抜性の高い大学への進学に対応する高校
- (3) 実践的な職業教育に対応する高校

として学校経営を進めています。令和3年3月の卒業生は国公立大学や公務員希望者への学校独自の取組により、自然科学・人文科学系列では国公立大学29名を含む、学校全体では進学率70%以上、公務員は29名と全体の20%を占める成果を上げているほか、情報・流通ビジネス系列では資格取得の取組など、すべての方向性を取り入れた学校づくりを進めています。

このことから、現状の学校規模の標準である4学級維持を求めます。

- 2 急速に進む少子化を背景においても、高校受検の倍率が西北地区で1番高い青森県立木造高等学校の学級減は中学生の進路選択に与える影響が非常に大きく、未来を担う子どもたちが等しく夢や志の実現に向けて希望する教育を受け、新しい時代を主体的に切り拓いていく人づくりをめざす青森県教育委員会が掲げる充実した教育環境を整えていくという方針と相違しています。

青森県立高等学校教育改革推進計画の西北地区では、青森県教育委員会の指定する重点校が、令和3年度の第1次進路志望状況調査において1学級の定員を超える50名以上が希望をしておらず、過去5年間を見ても1倍を超える倍率はわずか1年しかない状況です。

青森県立木造高等学校は5年間のうち、4年間で1倍を超える倍率を残し、平均1.17倍と中学生の進路志望状況調査では1番高く、地区の状況を鑑みても、おのずと希望者が50名以上少ない学校から1学級減とすることが妥当です。

- 3 青森県教育委員会の説明では、この高等学校教育改革は、第1期実施計画、第2期実施計画と合わせて10年間を見渡した総合計画としたと説明をいただきました。その中で、この7月に第1期実施計画は普通科と工業科、第2期実施計画では総合学科と農業科を対象に進めていくと説明をいただきましたが、意見交換会を含め、そのような方向性は一度も説明を聞いておらず、誠に唐突です。

また、他の地区では総合学科が学級減とならず、普通科が学級減となっていることから、青森県教育委員会の説明には矛盾があります。

普通科や総合学科は、授業形態及び授業の方向性にさほど相違がないことから、西北地区において普通科関係と専門学科関係に分けて総合的に考えた場合、普通科の学級を減ずることが妥当であり、普通科関係では、希望者が50名以上少ない学校または、新設された普通科を先に1学級減ずることが優先されるべきです。

4 西北地区の生徒数減少を考慮した青森県立高等学校教育改革推進計画なのであれば、将来的に青森県立五所川原高等学校や青森県立木造高等学校の学級数に影響を及ぼす可能性があったと考えられます。

このような状況が想定できたのであれば、西北地区に普通科2学級を新設したことは理解しがたく、青森県立木造高等学校の学級数減よりも、希望者が50名以上少ない普通科または、新設された普通科の1学級減を優先すべきです。

5 青森県教育委員会の説明では、つがる市の中学生の人口減少に考慮して青森県立木造高等学校を1学級減としたとの説明を受けましたが、青森県立木造高等学校入学者の内訳は、つがる市からが約38%であり、約50%の生徒は五所川原市近隣の中学校から入学しています。西海岸地区からの入学者も多く、また、総合学科を含め、他の学科も地域枠を設けない県内全域募集となっており、説明には矛盾があります。

6 新設された普通科は、令和4年度に閉校される青森県立金木高等学校及び青森県立鶴田高等学校並びに青森県立板柳高等学校を考慮してつくられたものと考えていますが、今年度の高校入学試験において入学者の検証がされているのかが疑問であり、新設された普通科がある自治体以外の生徒の入学が多いのかについて、先に検証してから学級減を公表するべきです。

7 青森県立高等学校教育改革推進計画は、これまで以上に知事部局と教育委員会とが連携を強化し、知事部局が進めている地域活力振興、人口減少対策の視点を踏まえた青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画を策定するべきであり、その施策と整合させることを求めます。

令和3年7月20日

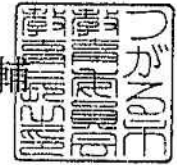
青森県教育委員会

教育長 和嶋 延寿 殿

つがる市長 倉 光 弘 昭



つがる市教育長 葛 西 岷 輔



つがる市連合父母と教師の会

会 長 松 橋 俊 一



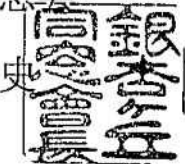
青森県立木造高等学校後援会

理事長 増 田 教 正



青森県立木造高等学校银杏ヶ丘同窓会

会 長 川 嶋 大 史



青森県立木造高等学校父母と教師の会

会 長 一 戸 祐 治

